

松戸アート。

チキユウトア
ンゾ
グ

DOCUMENT

記録集 2023

ピクニク

松戸アートピクニック2023 ~チキュウトアソブ~

2023.10.28(土)-11.12(日)

21世紀の森と広場
つどいの広場、みどりの里、千駄堀池とその周辺
(千葉県松戸市千駄堀269)

松戸アートピクニックは、2011年より、松戸市の中央に位置する公園「21世紀の森と広場」が有する豊かな自然環境を舞台に、現代アートをきっかけに多様な文化的価値を創造する芸術祭として開催が始まりました。公園の豊かな環境とともに、アート作品を楽しむ、新しい自然との関わり方を発見すること、世代や言語を超え、広く交流が生まれるきっかけとなる場の創出と、多様な相互理解を目指しています。

2023年に引き続き、聖徳大学美術研究室が中心となり、「髪の木プロジェクト」と共に私たちの周りにおける「世界」をアートの切り口で楽しむ場を作り上げました。色や形、光、手触り、音、風などを五感で感じることは、まさに「チキュウトアソブ」体験となりました。

総合監修 大成哲雄

(聖徳大学 教育学部 児童学科 教授)

主催 松戸アートピクニック実行委員会

共催 松戸市、松戸市教育委員会

後援 聖徳大学、聖徳大学生涯学習研究所

髪の木プロジェクト in まつど

伊藤なごみ + 野村祐介

髪の木プロジェクトは髪形を木々の造形に見立てることで「髪の木」に変身し、自然と一体化する参加型アートプロジェクトである。本会期中の参加者はSNSからの公開応募も行い、松戸市とその周辺地域の参加者を中心に、10月28日/29日の2日間にかけて、21世紀の森と広場の各所で髪の木制作及び撮影を行った。幅広い年齢層の方々に参加して頂き、約20名の髪の木が生まれた。



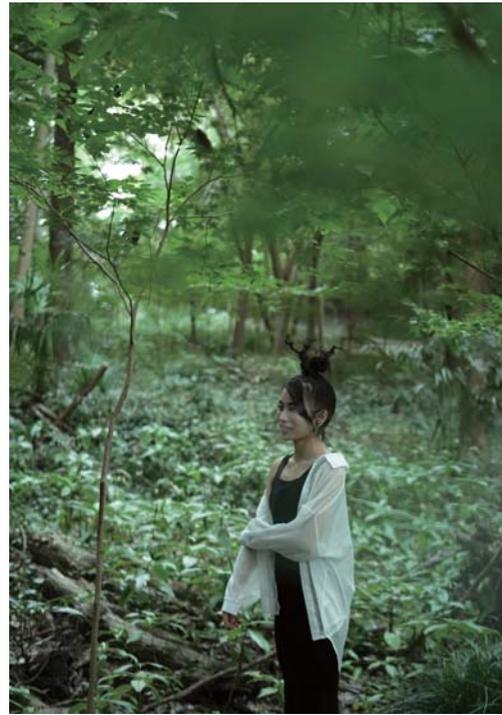
Story of tree

伊藤なごみ + 野村祐介

9月30日・10月1日の2日間で実施した髪の木イベントの記録を展示。市民の皆様や聖徳大学の学生、卒業生などがモデルとなり、公園内の各所で約10名の髪の木制作を行った。当日の制作の様子をまとめたドキュメントムービーや、髪の木のプロトタイプをパークセンター内で展示した。

場所：パークセンター
size：W420×H300mm 12点
映像：3分38秒





動く対話プロジェクト

S+N laboratory（西園政史，榎貴美）

コロコロころがる絵と対話するプロジェクト。広場に置かれた透明な球体に絵を描こう！描いたら、転がして、また描こう！

広場に置かれた透明なバルーンには、設置されたペンを使って自由に何かを描くことができる。バルーンは透明のため、のぞき込むと透けて向こう側がみえる。反対側の絵、描く人、広場、空。そして、バルーンを転がすことで、自然や広場、他者との関係性を築く。この作品は、バルーンを介して何かと対話が始まる仕組みをもっている。

場所：つどいの広場

素材：バルーン、水性ペン

size：φ 200cm×5 個





まっくろどうぶつ伝言板

S+N laboratory（西園政史，榎貴美）

21世紀の森と広場「みどりの里」にまっくろ動物が出現！？何体いるかな？動物以外の形もあるかも！？探してみてね。

小道に沿って、まっくろなどうぶつシルエットを設置。行進しているように、みんなと一緒に歩くように広場の自然のなかに溶け込む。シルエットは、鑑賞者が広場の環境に触れながら作品に出会うことで、日常と非日常を行き来するツールとなっている。そして、SNSに画像をアップし、ここでの出会いを社会と共有する作品になっている。

場所：みどりの里

素材：合板、塗料

size：約 W50×約 H100cm 21点



植物や虫、動物など、この森で生きるものたちの「動き」を描いた作品。一見静かに見えるこの場所では、たくさんの生き物が光や風を浴び、絶えず動き続け力強く生きている。

絵の中にも虫や動物の姿をいくつか描き込んだ。鑑賞者は作品に近づいたり、離れたったり、森の中で虫を探すような気持ちで作品を観ることで、この森の「命」を再認識することができる。

場所：新緑の丘 素材：ターポリン、角材 size：W300×H300cm

森の声

能登谷小町





ハッピーティピー

能登谷小町

アメリカの先住民が移動式住居として活用していた「ティピー」を自らデザインした布と、21世紀の森と広場にて伐採した竹を用いて3体制作し展示した。子どもから大人まで、幅広い世代の人達が広い自然の中に作られたカラフルで小さな空間と、そこから見える風景を楽しんだ。

場所：つどいの広場 素材：竹、布、ロープ
size：W160×D160×H200cm



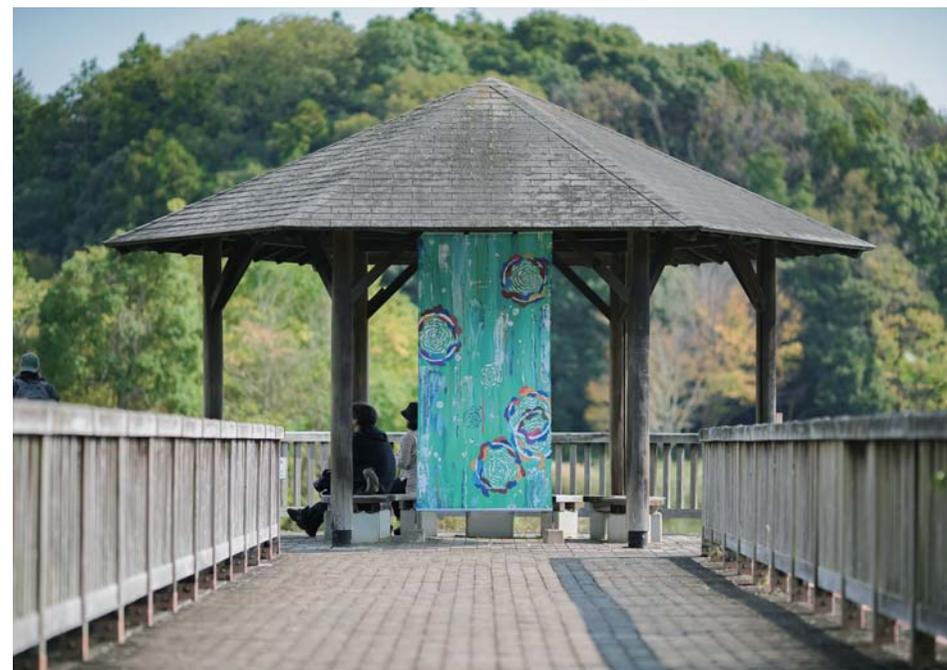
池の声

能登谷小町

この池の中にはどんな世界が広がっているのだろう。池の底を見ることはできなくても、水面の揺らぎや音が、そこで何かが生きていることを私たちに教えてくれている。

水の波紋のようであり、木の年輪や花のようにも見える模様と、そこに巻き付くように描かれた様々な色が、池と森のつながりとそこで生きる命の多様さを表現している。

場所：千駄堀あずまや
素材：ソフトクロス、竹、ロープ
size：W120×H240cm





グローバルピクニック 4 ～わたしはここにいる～

大成哲雄＋聖徳大学大成ゼミ

学生や子どもたちが作ったフラッグを武蔵野線に向かって振るワークショップや地域の協力で作った巨大な竹ブランコ、松戸市の航空写真をプリントしたレジャーシート、かざぐるまの花畑など「自然」や「グローバル」を体感し、楽しむ場を創出。「グローバル」とは「グローバル」と「ローカル」を同時に捉え、自分の足元と大きな世界を同時に楽しむことである。4回目は21世紀の森と広場の航空写真を使った卓球台やけん玉、竹とんぼができるエリアも用意し、より多世代交流ができる場を作った。

場所：つどいの広場

素材：竹、布、ターポリン、かざぐるま、洋ラン線、卓球台、けん玉

松戸ガリバーシート size：W750×D1000cm

宇宙ブランコ size：W400×D400×H1300cm

松戸屋台 size：W122.5×D75×H180cm

ガリバーピンポン size：W90×D180.5×H76.5cm



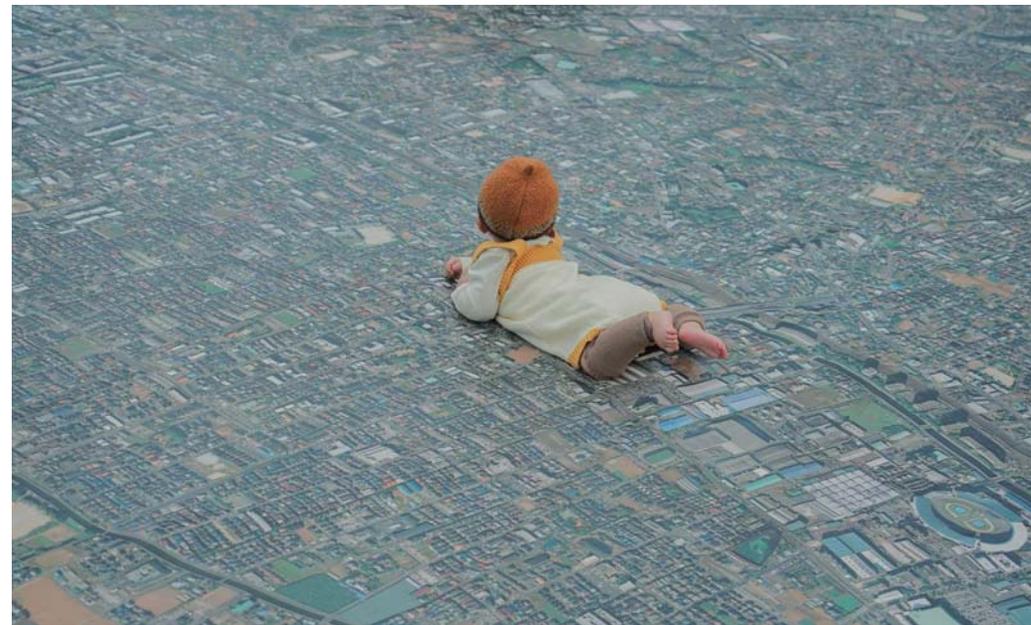


2012年に「常盤平アートプロジェクト」のために制作した作品。常盤平団地周辺の保育園、幼稚園の園児の自由帳の中から、自分が遊んで楽しかった様子の絵を借り、子どもの部分だけを切り抜き、子どもの身長に拡大した。子どもが少なくなった常盤平団地だが、かつては多くの子どもたちが遊ぶ光景が見られた。当初、スターハウス(星型住宅)周辺に展示する計画があったが、今回、公園内に立てることができた。笑顔やポーズから子ども時代の『かけがえのない時間』を伝えたいという想いは変わっていない。

スターチャイルド ～子どもの自画像～

大成哲雄

場所：つどいの広場
素材：アクリル板、鉄
size：W60 前後 × H110cm 前後 24 点





大成哲雄 + 聖徳大学大成ゼミ

大成哲雄 Tetsuo Onari

地域や教育機関などで様々な人と協力し、アートプロジェクトを展開。特に近年は松戸を中心に活動を行っている。2008年から聖徳大学と地域が協働し松戸中央公園で行っている「アートパーク」は16年続いている。子どもや大学生を交えたプロジェクトは、アートによるコミュニケーションや実体験の重要性を説きながらも、現実と非現実を往還するような表現も多い。様々な人が親しめるアートの表現を実践研究している。

- ・1994 東京藝術大学大学院修了
- ・聖徳大学教育学部教授

主な展覧会

- 2006 「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」新潟(09,12年にも出展)
- 2010 「松戸アートラインプロジェクト」千葉(11,12年にも出展)
- 2012 「常盤平アートプロジェクト」常盤平団地 千葉
- 2014 「中房総国際芸術祭 いちはらアート×ミックス2014」内田未来学校 千葉
- 2017 「松戸アートピクニック」21世紀の森と広場 千葉(2021,2022年にも出品)

著書

- ・『「上殿池名画館」におけるアートプロジェクトの波及性』/2010年/聖徳大学生涯学習研究所紀要
- ・「実践事例にみる ひと・まちづくり グローカル・コミュニティの時代」共著/2013年/ミネルヴァ書房
- ・「美術の授業のつくりかた」共著/2020年/武蔵野美術大学出版局
- ・文部科学省検定中学校美術教科書「美術1」,同「美術2・3上」,同「美術2・3下」共著/2020年/開隆堂出版



能登谷小町 Komachi Notoya

海や花、動物などをモチーフに地元青森の原風景を表現している。また、オリジナルキャラクター制作を行い、さまざまな表現方法で展開している。大学卒業後は、展覧会やイベント参加のほか、大学で学んだ幼児教育の知識を活かし、子ども向けのアート教室やワークショップを定期的に開催している。子どもたちがアートを通して自分を自由に表現できる「場」作りに重点を置き、活動している。

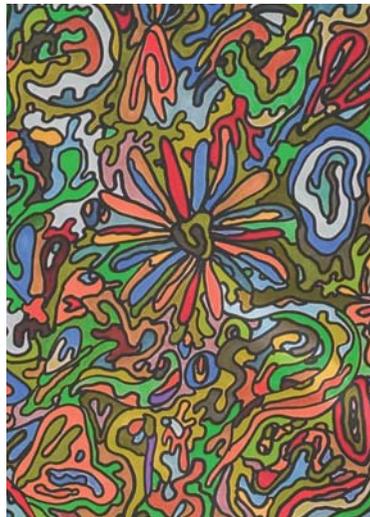
- ・2021 聖徳大学児童学科卒業
- ・聖徳大学美術研究室助手

主な展覧会

- 2019 「smiley グループ展」smiley coffee 埼玉
- 2021 「第14回 聖徳大学児童学科卒業研究作品展」聖徳大学 千葉
- 2022 「デザインフェスタVol.55」,東京
- 2022 「monkey house×Komachi個展」monkey house千葉
- 2022 「デザインフェスタVol.56」,東京
- 2023 「Monkey 6周年記念ライブイベント」monkey Sea & Real food 千葉
- 2023 「松戸アートピクニック〜ワンダフルワールド〜」21世紀の森と広場 千葉
- 2023 「Color of Peace個展」smiley coffee 埼玉

著書等

- ・「アートパークの実践から〜子どもの表現・保育者養成・地域連携〜」共著/2023年/聖徳大学生涯学習研究所紀要
- ・「新しい児童学への招待」表紙デザイン/2022年/聖徳大学出版局
- ・はじめてのおんどくえほん カ行音①「かえるくんとかたつむりくん」イラスト/2023年/三恵社



S+N laboratory (西園政史, 榎貴美)

S+N laboratoryは、美術教育研究者兼美術家である西園政史と、美術家である榎貴美によって2012年に結成。S+Nではワークショップを中心とした活動をはじめ、プロジェクト、コラボレーション、美術協力等、多岐にわたる活動を行っている。活動の特徴として、人と町、そして社会との関係を持ち、作品づくりをしている。

西園政史 Masashi Nishizono

- ・2009 武蔵野美術大学大学院修了
- ・2013 兵庫教育大学連合学校教育学研究科 博士課程修了 博士号取得
- ・聖徳大学教育学部准教授

榎貴美 Kimi Sakaki

- ・2012 東京造形大学大学院造形研究科 造形専攻美術研究領域修了
- ・国内外のギャラリーを中心に個展、グループ展など多数開催

主な展覧会

- 2016 「白浜町十九淵消防車庫壁画制作」和歌山
- 2016 「くどやま芸術祭」和歌山
- 2019 「ART369プロジェクト」栃木
- 2021 「紀の国トレイナート2021」和歌山(14,15,16,17,18年にも出展)
- 2023 「中之条ビエンナーレ」群馬(15,17,19年にも出展)

著書

- 西園政史
 - ・「小学校図画工作科教育法」共著/2018年/建帛社
 - ・「明日の小学校教諭を目指して 子どもの資質・能力を育む 図画工作科教育法」共著/2019年/明文書林 榎貴美
 - ・「KIMISAKAKI twinkle」単著/2019年/月曜社



髪の本プロジェクト (伊藤なごみ+野村祐介)

2018年に伊藤なごみが学生時代に開始したプロジェクトです。2020年に野村祐介の主催する造形教室のキッズワークショップを経て、二人のユニットとして活動してきました。とよたデカスプロジェクト2021の企画入選から本格的に活動を開始し、これまでに愛知・岐阜を中心にイベントを開催し、100名以上の髪の本の輪が生まれ、自然と人をつなぐ活動を続けています。

伊藤なごみ Nagomi Ito

自動車メーカーでCMFデザイナーとして勤務する傍、「髪の本プロジェクト」や、石の造形をテキスタイルに展開したプロダクト「石の展開図」など、自然をテーマにした活動を行なっている。髪の本ではスタイリングとポートレートを担当。テキスタイルデザイナー / CMFデザイナー

- ・2018 髪の本プロジェクトを開始
- ・2021 愛知県立芸術大学 美術学部デザイン専攻卒業 '23年同大学院修了
- ・2023 「石の展開図」神戸財団賞受賞、同年4月にはgallery naniで個展開催

野村祐介 Yusuke Nomura

名古屋を拠点にデザインやアートプロデュースを中心に活動しながら、様々な年代の美術講師を経て、2020年には小学生を対象としたデザイン教室を開校。新しい授業開発やデザインワークショップを行なっている。髪の本ではディレクションや撮影・広報を担当。

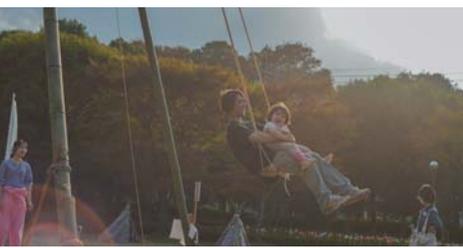
- 2002 愛知県立芸術大学 美術学部デザイン専攻卒業 '04年同大学院修了
- 2020 こども造形スタジオ「ふしぎcreative」開校 Suzuki造形美術研究所講師、三重大学非常勤講師、トライデントデザイン専門学校非常勤講師 グラフィックデザイナー / アートプロデューサー

主な展覧会・活動

- 2020 「ふしぎcreative キッズ・親子ワークショップ」(2020年より継続的に開催)
- 2021 「髪の本プロジェクト in とよた」とよたデカスプロジェクト2021 愛知
- 2022 「髪の本プロジェクト in かかみがはら」髪の本写真展」同時開催 岐阜
- 2023 「民花×ヘッドネーション」民花 岐阜
- 2023 「森の結婚式」招待参加 愛知県民の森 愛知



- 1 「髪の木プロジェクト in まつど」
WS 10/28,29
- 2 「Story of tree」
- 3 「動く対話プロジェクト」
WS 10/28,29 11/5
- 4 「まっくろうふつ伝言板」
- 5 「ハッピーティビー」
- 6 「森の声」
- 7 「池の声」
- 8 「グローバルピクニック4
～わたしはここに～」
WS 10/28,29 11/3,5,12
- 9 「スターチャイルド
～子どもの自画像～」
- 10 アートピクニック鑑賞ツアー
WS 10/28,29



アーティストが語る

松戸アートピクニック、 21世紀の森と広場の魅力

大成 哲雄 野村 祐介 伊藤 なごみ 西園 政史 柳貴美 能登谷 小町

大成 皆さんこんにちは「松戸アートピクニック2023」お疲れ様でした。準備期間も含め、とても充実した活動になりました。プロジェクトを終えてアーティストの皆さんに感想を聞いてみたいと思います。

アートピクニックを終えて・・・

大成 松戸アートピクニックに初めて参加していかがでしたか？

野村 このプロジェクトは自然を巡る「旅」や「場所性」もコンセプトの一部だと思います。撮影や制作場所の移動も柔軟に対応して頂き、パーク内の様々な場所を巡ることが出来てよかったです。私たちも参加者もアートを通じてピクニックを楽しめました。

大成 髪の毛プロジェクトは以前からインスタグラムなどで拝見し注目していました。このプロジェクトの経緯などを教えてください。

伊藤 髪の毛の成長と、木々の成長が似ていることから着想しました。物質的な作品ではなく、参加者が作品の一部になり、その時でしか出来ない作品を目指しています。イベントを開催していく中で、想像以上に子どもから大人までたくさん反応があり、続けていくきっかけとなりました。

大成 昨年引き続き参加していかがでしたか？

多くの方が、この流れのなかで作品に参加してくださいました。皆さん、絵を描くことに対し、力まずにのびのびと参加してくれている様子があつて、よかったです。

大成 私は「グローバルピクニック」を4回行ってきましたが、「重力と戯れる」ということも意識してきました。竹ブランコやフラッグなどは重力から解放されることが楽しいと思える作品だと思います。今回新たに、けん玉や卓球ができるエリアを作りました。これも重力と関係しています。玉は何もしなければ地面に落ちますが、皿や剣ラケットで受けることで遊びが生まれます。けん玉で遊んでいるのですが、実は地球と遊んでいるのではないかと思う瞬間があり、一連の作品とつながると思えました。アートを通じて地球を感じ、全身で楽しめる場ができないか：そういった想いをサブタイトルの「チキユウトアソブ」にこめました。

21世紀の森と広場の魅力は どういふところにありますか？

野村 都心に近い松戸市でありながら、自然が残っている貴重な場所だと感じました。森と水辺の両面を併せ持っている美しい場所だと思います。髪の毛制作の舞台として使用させて頂いた、森のステージの雰囲気がとても気に入っています。

能登谷 みんなの憩いの場や交流の場でありながらも、人が手を加えていない自然が

能登谷 昨年展示した「ハッピーティ

ビー」の他、今回は「森」と「池」に息をする生き物に着目した作品を2点制作しました。昨年、主につどいの広場での活動がメインでしたが、今回は21世紀の森と広場全体に目を向け、今まで見えていなかった自然の「つながり」や「力強さ」に気づくことが出来ました。訪れた人たちもアートを通して自然と関わり、改めてこの場所の豊かさを感じることができたのではないかと思います。また、「髪の毛プロジェクト」の活動にも参加させていただき、自分自身が木となることで、人と自然との境界線が曖昧になり自然の中に溶け込んだような一体感を味わうことができました。

大成 新作についてもう少し詳しく教えてください。どのように作品が生まれましたか？

能登谷 8月から9月にかけて、21世紀の森と広場を何度か訪れ、この場所で表現したいことは何か考えました。

水が流れる音や生き物の声、風、光などの自然の姿をここへ来る人たちの自然との関わりや過ごし方など、改めてこの場所の魅力を実感し、その中でも『千駄堀池』と『親緑の丘』で感じられる、自然の動きや静寂の中にある強いエネルギーを表現したいと思い、今回の作品が出来上がりました。自然の姿と同じように、天候や時間によって作品の見え方も変わることがおもしろかったです。

たくさん残されていることだと思います。広い敷地の中で自然の様々な表情が見られ、葉の色や匂い、鳥や虫の声などによって、季節の移り変わりを感じられます。また、木々の間から差し込む陽の光や、池の水に反射する森の姿など、どこを見てもアートの表現したくなるような風景があることも、この場所のおもしろさだと感じます。

西園 コンセプトを具現化したとき、21世紀の森と広場という空間が、より良い作品にしてくれているな、と感じました。アートピクニックのようなイベントと参加者が一緒に場をつくりあげていくような企画には、ピッタリだなと思います。アーティストも参加者も、いい意味で脱力しながら、アートと一緒に自分の時間が築ける、そんな魅力があります。

大成 私は、自然と人の生活が程よい距離で交差する場所が21世紀の森と広場だと思います。野鳥を守るために人が入ることのできないエリアがあつたり、開園時間以外は人が立ち入れなかったり、そうかと思えば広場の頭上を車が行き来し、武蔵野線が横を通り過ぎる。この風景は「自然と人」の共生についても考えさせられます。

21世紀の森と広場は、アーティストにとっても創作意欲を掻き立てるポテンシャルの高い場所のようです。まだまだ話し足りないところがあると思いますが、今回はありがとうございました。

大成 昨年に引き続き参加していかがでしたか？

西園 21世紀の森と広場は、空間としてのおもしろさがあるので、この環境のなかで何が楽しいのかと、作品コンセプトを考えるのが楽しかったです。なにより参加者の方々がのんびりとアートに触れている感じがいいですね。レジャーシートをひろげて家族とランチしながら、気が向いたら作品とたわむれる。ジョギングしながらアートのなかに入り、走りながら鑑賞。生活の自然なリズムのなかにアートがある、その感じがいいなと思っていました。

大成 新作についてもう少し詳しく教えてください。どのように作品が生まれましたか？

神 今回は、「動く対話プロジェクト」という参加型作品をつくりました。21世紀の森と広場は、のんびり歩いたり、アクティブに遊んだり、お昼寝したりと、空間としては、色々な動きが生まれる場所だと感じていました。その流れのなかで、作品を設置することを考え、みんなで動きを共有できる作品となりました。作品としては、大きな透明なバルーンにペンで絵を描き、それを大玉転がしのようにならして、作品として成立します。透けているので、描いた絵の反対側では、別の絵を描く人が見えたり、公園の自然や空が見えたりします。描くことと、転がすことで、21世紀の森と広場や誰かと対話している感じになります。

髪の木プロジェクト (伊藤なごみ, 野村祐介)

S+N laboratory (西園政史, 榎貴美) + 聖徳大学西園ゼミ

能登谷小町

大成哲雄 + 聖徳大学大成ゼミ

伊澤梨瑚、今村晴花、大石彩友実、大倉生愛、大竹莉愛、朱萌菜、小島朋佳、佐佐木唯奈、徳井星音、野口愛、堀川佳耶子、呉暁軒、糸井まどか、榎本奈桜、佐々木あおい、佐藤優奈、篠田莉帆、鈴木榛香、竹内芽衣、千濱笑里、萩原琴音、服部咲貴、日向いふ、藤ヶ谷明音、高田真希、堀紗華、渡邊思美、日渡菜月、勢井一花、熊谷葵、久保早穂莉、中川優花、佐藤牧子、齊藤春菜、遠藤いつも、堀内莉央奈、池田望恵、金田実佳、鈴木愛菜、沼澤美菜実、大野莉佳、西山凛、山内音葉、中村祐花、古瀬凜、磯部ななみ、笹目美生莉、浦沢かなえ、島田ひより、伴樹莉

榎本孝芳、下西立雄(クリエイティブまつど工房)

飯沼修、小林慎之介、安藤裕貴子(松戸市21世紀の森と広場管理事務所)

わたなべあてな(キービジュアルデザイン、記録集デザイン)

秋田翼(記録写真)

能登谷小町、大成哲雄(記録写真、映像)

協力/株式会社33工房

(敬称略・順不同)

「松戸アートピクニック2023〜チキュウトアソブ〜 記録集」

発行: 松戸アートピクニック実行委員会

〒270-2252 千葉県松戸市千田堀269

2024年3月

Instagram



@matsudoap
松戸アートピクニック



@oonarinarinari
聖徳大学
大成ゼミ



@spnlab
S+N
laboratory



@komachi_notoya
能登谷小町



@kamino_ki
髪の木
プロジェクト

MATSUDO ART PICNIC

—松戸アートピクニック



千葉県誕生 150 周年記念
松戸市制施行 80 周年記念
21世紀の森と広場開園 30 周年記念